広島大学附属三原学校園研究紀要　第７集　2017　pp. 53-60

国　語　科

物語を読む新たな楽しさを味わう国語科の学習

—第４学年　「世界でいちばんやかましい音」の実践を通して—

杉　川　千　草

The Japanese Learning on Experiencing a New Fun of Reading Story —Through Class Practice of Unit “The Loudest Noise in the World” in Fourth Grade Elementary School—

Chigusa Sugikawa

The purpose of this study is to develop a unit which enables students to experience a fun of reading story. In this study, the researcher developed a class practice of a unit “The loudest noise in the world” focusing on three points: 1) to treasure the encounter with works, 2) To make the most of understanding from others, 3) To pay attention to the author’s expressions. Through the practice, the results suggest that three points were identified to be effective for the students in enjoying some new interest in reading story such as finding the author’s efforts through the expressions and considering what the writer expresses in the story including its title. In addition, students managed to develop their knowledge of reading because of providing the introduction of the unit and the opportunity to discuss the story with other students encouraged students to read the story with an awareness of problem-finding. Concerning the results, the further Japanese classes would be possibly expected to be conducted in order to explore a new fun of reading story. (p.53-60)

１　問題の所在と研究の目的

21 世紀における社会の変化に伴って，これからの時代を生き抜くために求められる資質・能力をどのように身に付けていくのかが問われるようになってきた。これらの資質・能力は，言葉が基盤になっており，国語科で育成する能力と大きくかかわっている。中央教育審議会教育課程企画特別部会において取りまとめられた「論点整理」を踏まえて，国語科では，「自分の思いや考えを深めるため，対象と言葉，言葉と言葉の関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目してとらえ，その関係性を問い直して意味付けることが『言葉による見方・考え方』であると整理」[1]されている。

本学校園でも，「通教科的能力と関連的に育む国語科の本質に根ざした資質・能力」を「キャリアプランニング能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」の三つの観点から整理して実践を試みている。このような資質・能力を伸長・育成することによって，実生活の中でも読書に親しみ，自分の思いや考えを深めることができるよう，内容をより豊かに読むとともに，物語を読むことの新たな楽しさを味わわせたいと考えた。

２　研究の構想

(1) 物語を読むことについて

山元（2002）は，文学の読みの働きを，基本的に「楽しみのために読む」「知るために読む」という二つの側面に分けている。「楽しみのために

読む」という側面は，読者の側の感情や情緒に深くかかわるとし，文学を読んで自己発見をしたり，他者の理解にいざなわれたり，世界認識の方法を手に入れたりすることは，いわば文学作品を「知るための」ものとする営みであるとしている。「知るために」読むことと「楽しみのために」読むこととはつねにどこかで結び合っているのであり，「知る」ことが「楽しみ」を導き，「楽しみ」が「知る」ことを導くという関係を，学習指導の中で作り出していくということが重要なのである。そのような関係を作り出していくということが文学を通して〈ことばの学習〉を営んでいくことであり，子どもの〈ことばの力〉の発達をはぐくんでいくことなのである[2)]。また，本を読むことについて，山元（2015）は，「その本の著者（作者）との対話であると考えることができるでしょう。本を読むことは著者（作者）の描こうとした世界や主張や意見を理解することですし，その著者（作者）が何を言っているのか，何を訴えようとしているのかを，読者は自らの想像や推論で補いながら知ろうとするのです。」[3)]と述べている。

そこで，「楽しみのために読む」ことと「知るために読む」ことをつなげることができるように，読者としてだけでなく，作者の視点に寄り添うことによって，物語を読むことの新たな楽しさを味わわせたいと考えた。

(2) 物語を読むことの新たな楽しさを味わわせるために

物語を読む新たな楽しさを味わわせるために，次の３点に留意した単元構成を行う。

①作品との出会いを大切にする

子どもたちが読むことを楽しむためには，言葉への興味・関心を引き出し，課題意識や目的意識をもたせることが大切である。そこで，教材文を提示する前に，登場人物や題名からイメージを広げたり内容を予想したりすることによって，子どもたちの興味・関心を引き出して読みの課題意識をもたせ，学習に主体的に取り組めるようにする。また，原作の絵本を活用し，挿絵を含めて物語を丸ごと読ませることによって，授業の中での物語の読みを，実生活の中の読書につなげられるようにする。

②他者の読みを生かす

読みは一人ひとりそれぞれ異なり，最終的には自分に返るものである。しかし，個人の読みには限界があり，偏った読みや時には間違った読みになることもある。そこで，まずは一つひとつの言葉から感じたことや率直な疑問などを書き込むことによって，自分の考えをもたせるようにする。そして，それらを交流することによって，お互いの読みを広げ深め，課題解決を図ることができるような授業づくりをしていく。授業の終わりには，「なるほど」と思った友だちの考えを書き留めたうえで，みんなで学習して新たに学んだことや考えたことをまとめさせる。このことにより，他者の言葉から学んだことを意識化させ，自分の読みの変容を確かめることができると考える。このような学習を繰り返し行うことによって，他者とともに学ぶことのよさを実感させるようにする。

③作者の表現の工夫に着目する

子どもたちは，実生活の中で物語を読む場合，無意識のうちに内容のおもしろさや楽しさを味わっていることがほとんどであろう。しかし，そのおもしろさや楽しさは，作者の綿密な構成や表現の工夫に支えられたものである。その作者の意図や工夫を読み取らせるために，自分だったらどのような展開にするか，どのような題名を付けるかなどを考えさせ，実際の物語と比較させるようにする。このように，作者の表現の工夫に着目することは，恣意的な読みに偏ることなく，根拠をもった読みの力を育むことにつながると考える。さらに，作者の視点に寄り添いながら読む経験は，自分の考えをまとめたり表現したりすることにも生かすことができるであろう。

３　実践

(1) 単元名

表現のくふうを見つけよう（学校図書四下）
（「世界でいちばんやかましい音」

ベンジャミン＝エルキン作　松岡享子訳）

(2) 授業の構想

①単元について

ガヤガヤの都に住むギャオギャオ王子は，誕生日のお祝いに「世界でいちばんやかましい音」を聞くはずだったのに，人々の率直な願いが世界中に広まったおかげで，生まれて初めて自然の音に耳を傾け，静けさと落ち着きのすばらしさに気付かされる。物語は起承転結で構成され，題名や登場人物の設定，繰り返し使われる言葉などがテンポのよい展開につながり，読者を引き付け最後まで一気に読ませる。さらに，題名とは正反対の結末は，読者に物語の意味について改めて考えさせるものになっている。本単元では，一人ひとりの素直な感想や考えを友だちと交流し，表現の工夫に関心をもちながら物語を読み進めることによって物語を読む新たな楽しさを体験させることをねらいとした。

指導にあたっては，題名読みや物語の後半部分の予想を本文と比較させることによって，一人ひとりの率直な感想を引き出し，読みの課題意識をもたせるようにした。物語の読みにおいては，子どもたちの課題意識にもとづいて，物語全体の構成や展開を意識させながら学習を進めさせた。その中で，題名や登場人物の人物像，繰り返し使われる言葉が，物語のテンポよい展開やどんでん返しのおもしろさにつながる，作者の巧みなしかけに気付かせるようにした。さらに，物語の展開のおもしろさにつながる作者の表現の工夫を見つけたり，作者が題名に込めた物語の意味を考えたりすることができるようにした。

本単元で育む資質・能力とその指導は，表１のとおりである。

表１　本単元で育む「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力」

通教科的能力	人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
教科の本質に根ざした資質・能力	日常・社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。人との関わりの中で，国語で正確に理解したり適切に表現したりする。言葉や文字によって，考えを形にしたり深化したりするために，意志や感情などを伝え合い，コミュニケーションを成立させることができる。（コミュニケーション能力の基盤を成す国語の運用能力）	言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに，言語文化に関わり，国語を尊重しようとする。言葉を生活の中で使いこなし，言語生活の向上を志すことで，自分の人生を豊かにしようとする。（国語を尊重し，言語生活の向上を志す態度）	日常・社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養うとともに，新たな考えを創造する力を高めるようにする。将来に希望をもつために言葉で課題を多角的に精査したり，構造化したりするための思考力を身に付け，適切に表現することができる。（論理的思考力・想像力の基盤を成す国語の運用能力）
具体的な姿	物語の主題や作者の工夫などについての自分の考えを交流する。	物語の結末を予想したり，構成や展開などの表現の工夫をとらえたりする。	課題意識をもち，課題解決に向けて言葉にこだわりながら物語を読む。
指導の手立て	本文を根拠に，学習課題についての自分の考えをもたせる。 他者の考えとの相違点を見つけながら，交流させる。 授業の中で他者から学んだことを，書き留めさせる。	題名読みや物語の後半部分の予想を，本文と比較させる。 物語の展開のおもしろさにつながる，作者の工夫に気付かせる。 物語の内容にふさわしいと思う新たな題を考え，物語の意味を考えさせる。	初読の段階での感想や疑問をもとに学習課題をつくらせる。 大まかな学習計画をつくり，見通しをもって学習を進めさせる。 学習課題にもとづいて，言葉にこだわりながら，内容を読み取らせる。 友だちや作者の考えと比較しながら読み，共通点や相違点を見つけさせる。
評価方法等	授業観察やワークシート，振り返りの記述	授業観察やワークシート，振り返りの記述	授業観察やワークシート，振り返りの記述
期待される主体的な学びへの効果	他者から学んで自分の考えを広げたり深めたりしたことを，意識化することができるようになる。	物語の展開につながる作者の工夫を見つけながら読む楽しさを味わうことができるようになる。	課題解決に向けて，言葉と言葉を関連付けながら，物語を読むことができるようになる。

②目標

○　表現の工夫に関心をもちながら，物語を読み進めようとすることができるようにする。

○　登場人物の心情やその変化を読み取りながら，物語全体の構成を理解し，物語の構成や展開，書き方にかかわる表現の工夫に気付くことができるようにする。

○　設定・展開・山場・結末など物語全体の構成を理解することができるようにする。

③学習計画（全10時間）

第１次　物語の続きを予想しよう　・・・２時間
第２次　「世界でいちばんやかましい音」を読もう・・・４時間
第３次　物語の意味を考えよう　・・・４時間

(3) 授業の実際

〈第１次　物語の続きを予想しよう〉

①第１時

「世界でいちばんやかましい音」という題名にちなんで，身の回りにはどんな音があるか，「音」という言葉からイメージを広げさせ，交流させた。

子どもたちからは，「きれいな音」「さわやかな音」「やさしい音」「心が休まる音」「静かな音」「軽やかな音」「ゆかいな音」「にぎやかな音」「さわがしい音」「うるさい音」等々，たくさんの音のイメージが出された。それらを「心地よい音」とそうでない音のグループに大まかに分類した後，「やかましい音」に着目させ，「世界でいちばんやかましい音」とはどんな音だと思うか，考えさせた。

子どもたちからは，

・太鼓や花火を打ち鳴らす音
・デモで反対する人々の声
・飛行機のエンジン音
・ロケットの発射音
・地球や星が爆発する音

等々，様々な考えが出された。

その後，原作の絵本[4]で，教科書本文 106 ページ 12 行目の「その時こくが来たら，みんな，ありったけの声で，『ギャオギャオ王子，おたん生日おめでとう！』と，さけぶことになっていました。」までを読み聞かせ，続きがどんな展開になると思うか想像して書かせた。

子どもたちが考えた続き話は，「世界でいちばんやかましい音」が「実現する」「実現するけれど……」という二つのパターンに分かれた。「実現する」方は，王子様や王様が人々とともに喜んで終わり，「実現するけれど……」の方は，次のように，王子様や王様，ガヤガヤの都の人々に何らかの変化が起きたり，オチがついたりする展開になっていた。

> そして，その日がやってきました。世界中のみんなや王子様が時計を見て，その時こくがくるのを楽しみにしていました。ガヤガヤの都もやかましい町なのに，今日だけはしーんとしていました。みんなが，
> 「十分前，……，一分前。」
> と言っています。王子様は，ドキドキワクワクして外に出ました。
> ついに，その時こくがきました。王様と王子様は，カウントダウンを始めました。
> 「五・四・三・二・一・〇！」
> 世界中のみんなが
> 「ギャオギャオ王子，おたん生日おめでとう。」
> と言いました。ギャオギャオ王子は，あまりのやかましさにこしをぬかしました。そして，とても喜びました。王子様も世界中のみんなも，とてもいい思い出になりました。

> ギャオギャオ王子は，その日のことを考えながらねました。
> ついに，その日がきました。王子は，
> 「もうすぐだ，楽しみだな。」
> と，どんな音かを考えていました。
> 時間になりました。王様が，
> 「いっせーの一で。」
> と声をかけると，
> 「ギャオギャオ王子，おたん生日おめでとう！」
> その音は，耳がちぎれるほど大きな音でした。王子は，
> 「みんな，ぼくが聞いた中で，いちばん大きな音だったよ。ありがとう！」
> すると，あらしのような大きな音ではく手が起こりました。
> 「ありがとう，お父さん。」
> 王子が言いました。
> その夜，町の人たちは，大声を出しすぎて，いびきも大きくなったとさ。

待ちに待ったギャオギャオ王子のたん生日がやってきました。
ガヤガヤの都の時計が，みんながさけぶ時こくを指しました。すると，いっせいに，とてつもなく大きな声が世界中にひびいてきました。ギャオギャオ王子は，
「これを待っていた。これを探していた。」
と，世界でいちばんやかましい音が聞けました。
しばらくすると，大きくひびいていた声は消えました。王様は，
「これでいいかの？」
とききました。ギャオギャオ王子は，何回もこくんこくんとうなずいていました。
ギャオギャオ王子は，王様になった今でも，いだいなる音をさがし続けています。

②第２時

はじめに，前時に考えた各自の続き話を交流させた。子どもたちは，友だちの続き話の様々な展開を，それぞれ楽しみながら聞いていた。その後，絵本で，後半部分を読み聞かせた。子どもたちは，一人の奥さんから始まった「別に悪気はなかったのですが」という言葉の繰り返しに，「ずるい！」と声をあげながらも，予想外の展開を楽しんでいた。授業の終わりに，自分が考えた続き話と比べながら感想を書かせた。

作者さんは，「大きな声で話す」ではなく，「わめくかどなるか」と書いていたことと，はしごを使ってドラムかんとバケツの山にする時に「どんどんどんどん高くしていきました。」ということが作者さんの工夫だと思いました。作者さんが表現する時に，「電気のように世界中をかけめぐりました。」と書いてあったのがすごいなと思いました。「世界でいちばんやかましい音」のお話は，「どうなるのかな？」と思って，先が読みたくなるようなお話でした。

ぼくの続き話は，みんなが約束を守ってＨＡＰＰＹで終わるけど，作者はこんな結末にしたので，そこはまねしたいです。ぼくは，一人のおくさんがいけないけど，いいことしたと思います。それがぎゃくにいいことになったと思いました。それに，やかましいと何だかやさしくない気がするけど，静かになったことで，ほんわかした空気になり，自然に気付くことができたのでいいと思いました。ギャオギャオ王子がやさしくなったので，よかったと思いました。

王子は，最後にだれもおいわいの言葉を言わなかったのに，静かにしていることの楽しさや，自然の音を初めて聞いてその静かさを知って，「やかましい」ではなく真ぎゃくの「静かさ」だったので，わたしはびっくりしました。それだけではなく，かんばんや町のイメージががらりと変わり，人や動物も静かなことにもびっくりしました。
本当は，最後の結末は，おくさんたちが思い切り声を出し，これからも世界でいちばんやかましい町として残るのかと思いました。わたしが書いた続き話とは，王子が喜ぶところ，静かになるところ，全てがちがいました。わたしもベンジャミン＝エルキンさんがしたように，予想外のてんかいをまねしたいです。

同時に，みんなで学習したいことや読み深めたいことなどを書き留めさせた。

〈第２次　「世界でいちばんやかましい音」を読もう〉

①第１時

物語のあらすじや主人公を確認するとともに，前時に書いた初発の感想を交流させた。また，「みんなで学習したいこと」「もっと読み深めたいこと」について話し合い，全体での学習課題を次のように決めた。

○　王子はなぜ「世界でいちばんやかましい音」が聞きたかったのだろう。
○　王子のたん生日をいわうために，世界中の人はどんなことをしたのだろう。
○　「世界でいちばんやかましい音」が聞けなかったのに，王子はなぜ喜んだのだろう。
○　作者はなぜ「世界でいちばんやかましい音」という題にしたのだろう。

次の時間からは，これらの学習課題についてそれぞれ自分の考えをもち，それを交流した後に学んだことをまとめるという流れで授業を進めた。

②第２時

「王子はなぜ『世界でいちばんやかましい音』が聞きたかったのだろう。」という学習課題について考え，物語の設定を確認させた。その中で，世界でいちばんやかましいガヤガヤの町の様子やギャオギャオ王子の人物像との関連から，「世界でいちばんやかましい音が聞きたい。」という願いにつながっていることに気付かせた。

王子が大好きな遊びでも大きな音が出るし，ガヤガヤの都は世界でいちばんやかましい町だから，やかましい音に耳がなれて，これ以上のやかましい音，つまり世界でいちばんやかましい音がどんなものかずっと前から知りたくなっていたから，たん生日のおくり物を世界でいちばんやかましい音にしたんだと思います。

ギャオギャオ王子は，たいていの大人よりずっとやかましい音を立てることができるから，自分よりやかましい音は，世界でいちばんやかましい音だと思ったので，聞きたかったんだと思います。ガヤガヤが世界でいちばんやかましい町だからこそ，世界でいちばんやかましい音が聞きたかったんだと思います。王様は，歴史に名が残るわけだし，二人ともいい気持ちだということがわかりました。

③第３時

「王子のたん生日をいわうために，世界中の人はどんなことをしたのだろう。」という学習課題について考え，物語の展開を読み取らせた。その中で，はじめは全世界の人が賛成して，王子の誕生日をお祝いすることになっていたのに，一人の奥さんの何気ない言葉から，台無しになりそうになっていることを確かめさせた。

「だれもかれもこの思いつきはおもしろい，喜んで賛成しましょう。」のところで，何百万，何千万，何億もの人々が一人残らず返事を返し，賛成したんだと思います。王子様一人のために，何百万，何千万，何億もの人が一人残らず賛成したところがすごいなと思いました。

世界中の人たちは，ギャオギャオ王子のたん生日をせい大にいわおうとしたけれど，一人のおくさんが「わたしも世界でいちばんやかましい音が聞きたい。」と言って，その考えが「別に悪気はなかったのですが」とどんどんどんどん世界中の人たちに伝わって，ガヤガヤの町の人たちにまで伝わったんだと思います。

④第４時

「『世界でいちばんやかましい音』が聞けなかったのに，王子はなぜ喜んだのだろう。」という学習課題について，物語の山場を読み取らせた。「世界でいちばんやかましい音」は実現しなかったことで，王子が生まれて初めて，自然の音や静けさや落ち着きを知ったことを確認させた。

王子は，いつもやかましい大きな音を聞いていたから，生まれて初めて小鳥のきれいな歌や木の葉が風で鳴るやさしい音，小川のさらさら流れる音を聞いて，静かな音も自然の音も気持ちよく感じることができたんだと思います。だから，王子は世界でいちばんやかましい音を聞けなかったけど，喜んだんだと思います。

五場面までは，「世界でいちばんやかましい音プロジェクト」の実現から一歩ずつ遠のいていきましたが，王子様の思いがけないあのはく手で，ぎゃく転しているようでした。おくさんのせいではあったけれど，おくさんのおかげで，王子様は小鳥の歌や小川の流れや木の葉などの音が発見できたたん生日になったと思いました。

〈第３次　物語の意味を考えよう〉

①第１時

これまでの学習を振り返り，物語の内容にふさわしい新たな題名を考えさせた。子どもたちが考えた題名は次のとおりである。

ガヤガヤの都について
「世界でいちばんにこだわる都」「世界でいちばん静かな町」「やかましくて静かな町」「ぎゃく転勝利の都！？」　など

ギャオギャオ王子について
「自然の音はすばらしいと気付いた王子様」「やかましい王子から静かな王子へ」　など

たん生日について
「王子様のたん生日」「王子様の静かなたん生日」「生まれて初めてがいっぱいのたん生日」　など

音について
「初めての静けさ」「世界でいちばん美しい音」「生まれて初めて聞いた音」「世界でいちばん美しいプレゼント」　など

おくさんについて
「ありがとうおくさん」　など

それぞれ，物語のカギとなる登場人物や時，場所などをもとに，自分なりに物語の主題をとらえた題名を考えていた。

②第２時

前時に考えた題名と，物語の題名を比較することによって，「作者はなぜ『世界でいちばんやかましい音』という題にしたのだろう。」という学習課題について考えさせた。

物語の中では，「世界でいちばんやかましい音」

は実現しなかったが，「世界でいちばんやかましい音が聞きたい。」と言った王子の願いが物語を動かしていることに気付き，作者が題名に込めた物語の意味を考えることができた。

「世界でいちばんやかましい音」が出せなくては「世界でいちばんやかましい町」にならないから，この題にしたんだと思います。王子は，世界でいちばんやかましい音を聞けなかったけど，それは失敗ではないということがわかりました。

世界でいちばんやかましい音プロジェクトがなければ，静かで美しい音を王子が聞くこともなかったから，王子の心を動かしたきっかけになったプロジェクトを題名にしたんだと思いました。立て札にも町の変化が表されていることがよくわかりました。実は，みんな王子と同じで，世界でいちばんやかましい音が聞きたくて，おくさんは悪気があって言ったわけではないのです。題名は，作者の工夫と物語の大切な役割がかかわっているということがわかりました。

③第３・４時

これまでの学習を振り返るとともに，「設定」「展開」「山場」「結末」からなる物語の構成を確認した。また，作者が読者の予想を何度も良い意味で裏切っていることが，最後まで読者を引き付けるとともに，繰り返し使われる言葉や擬音語も，物語のおもしろさを生み出していることに気付かせることができた。

「世界でいちばんやかましい音」では，読者に楽しんでもらえるように，どんでん返しを入れていること，設定で主な登場人物のしょうかいをして，展開でプロジェクトをスタートさせて，山場でどんでん返しがあり，結末では，その後の町の様子について書かれているということがわかりました。

私は，この物語がとってもおもしろかったです。作者さんは，題名や物語の中にたくさんの工夫を残していました。本当はこうなるはずなのに，一人のおくさんから予想もしない出来事がどんどん広がっておもしろさにつながっているからです。

その後，学習のまとめとして，それぞれが物語の続き話や，登場人物の日記，作者の後書きなどを書く活動を行った。

４　考察

(1) 作品との出会いを大切にする

今回の単元では，物語の全文を読む前に後半部分の予想を取り入れた。事後アンケートによると，「物語の後半の予想を書くことは，学習課題を作ることに役立った。」と答えた子どもは，31名中29名いた。その理由として「後から疑問が生まれて，学習したいことが見つかった。」「自分の書いたものと本文が全く違ったので，違いを生かして，どうしてここはこうだったのかという課題が作りやすかった。」「自分の考えが発表できるし，続き話作りに生かせて楽しかった。」などを挙げていた。子どもたちは，自分の予想と本文とを比較しながら，読みの課題意識をもつことができたと考えられる。また，自由に想像することで楽しさを感じさせ，イメージを広げたり内容を予想したりすることによって子どもたちの興味・関心を引き出すことができた。

一方，「予想を書いたことが学習課題に生かせなかった。」「自分の考えがあまり発表できなかった。」という理由で「役立たなかった。」と答えた子どももいたので，活動の意図や他の活動への生かし方を具体的に伝えるなど，より細かい手立てが必要であったと考えられる。

また，原作の絵本にふれさせたことで，教科書に載っていない挿絵に興味を持ち，ガヤガヤの町の立て札の変化まで，本文と結びつけながら読み取っている子どももいた。

(2) 他者の読みを生かす

学習課題についての読み取りの時間には，授業の終わりに「なるほど」と思った友だちの考えを書き留めておき，学習をとおしてわかったことや考えたことをまとめさせるようにした。

Ｙ児も，第２次の第４時では最初，

王子はいつもやかましい大きな音を聞いていたから，とても静かな音や自然の音を気持ちよく感じることができたんだと思います。だから，世界でいちばんやかましい音が聞けなかったけど，喜んだんだと思います。

と考えていたが，「王子の心もガヤガヤの町と共

に変化している。」などの友だちの意見を聞いて，

「生まれて初めて」と言う言葉がキーワードだということがわかりました。Ｓさんが言った「世界でいちばん静かな町の静けさが気に入ったから，町も気に入った。」という意見と，「世界でいちばんやかましい音ではなく，世界でいちばん美しい音を聞いた。」という意見に「なるほど！」と思いました。

のように，自分の読みを深めることができていた。

友だちから学んだことを意識化させることによって，自分の考えをたくさん書いたり積極的に発言したりすることで自分の読みを深めるとともに，他者とともに学ぶことのよさを実感させることにつながったと考えられる。

(3) 作者の表現の工夫に着目する

物語の新たな題名をつくったことについての事後アンケートでは，「物語の新たな題名を考えることは，作者の工夫を見つけ作者の伝えたいことを考えることに役立った。」と答えた子どもは，31名中29名いた。その理由として「作者はなぜこんな題名にしたんだろうと思って，作者の工夫を見つけたいと思った。」「あまり気にしていなかった題名に作者が工夫していたということがわかったし，物語のどんでん返しのきっかけをくわしく知ることができた。」「題名がいちばん大事なことを表しているから，作者が伝えたいことがバンバンわかった。」などを挙げていた。ふだんは何気なく読み過ごしてしまう題名にも，作者の思いが込められていることや，題名中の言葉にもある「音」がこの物語で大切な役割を果たしていることに改めて気付くことができた。

学習のまとめとして，Ｙ児は次のような作者としてのあとがきを書き，作者の表現の工夫に着目することをとおして，作者が読者に伝えたいことを自分の言葉でまとめていた。

読んでくれてありがとう

みなさん，こんにちは。「世界でいちばんやかましい音」は楽しんでいただけましたか。

私がこのお話を作っている時に，最初に思いついたのが，世界でいちばんやかましい音を聞きたいということでした。みなさんの中にも，「聞いてみたいな。」や「少し聞きたいな。」「そう言えば聞いてみたいかも。」と思う人がたくさんいることでしょう。

（中略）

お話の中では，現実ではできないこともできます。私は作りながら，「世界でいちばんやかましい音」や「自然の美しい音」を聞いて楽しみました。みなさんも満足していただけましたか。今私は，本当に聞いたような感じがしていますが，みなさんはどうですか。

みなさんは，静かな自然の音を聞いたことはありますか。王子様が喜んで気に入るくらい，とてもすばらしい音ですよ。まだ聞いたことのない人は，ぜひ聞いてみてください。

今回は，読んでくださり，ありがとうございました。

5　おわりに

単元の終わりに子どもたちは，学習をとおして学んだことを再構成する創作活動に，自分が作者になったつもりで楽しみながら取り組んでいた。Ａ児がつくった続き話には作者の願いが反映され，作者の表現を生かした次の言葉で締めくくられていた。

ガヤガヤの町からのプレゼント

（前略）

この町は，ずっと静かで平和な都。みんないつまでも平和にくらしています。立て札も，一文字たりとも変わりません。

「ようこそガヤガヤの都へ
　世界でいちばん静かな町」

今後も，物語を読むことの新たな楽しさを味わうことのできる授業をつくっていきたい。

＜注および引用文献＞

1)　文部科学省初等中等教育局教育課程課：「国語科において育成を目指す資質・能力」，初等教育資料，No. 946，p. 25，2016. 東洋館出版社
2)　森田信義編：『初等国語科教育学』，協同出版，pp. 46-49，2002.
3)　山元隆春編：『読書教育を学ぶ人のために』，世界思想社，pp. 10-11，2015.
4)　ベンジャミン＝エルキン作　松岡享子訳:『世界でいちばんやかましい音』，こぐま社